

【目次】

1. 友愛労働歴史館の一年を振り返って！
2. 新しい企画展「民社党結党60年」がスタート、1月7日（月）！
3. 教科書（NHK 高校講座「日本史」）の中の「友愛会」！

1. 友愛労働歴史館の一年を振り返って！

友愛労働歴史館は一年を通して①展示会・講演会活動、②資料の収集・管理、③調査・研究活動などに取り組んでいます。

2018年は展示会（常設展・企画展）活動として、企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」（2018.1.5～6.29）と、同「松岡駒吉—ひとすじに労働者の利益を守った男—」（2018.7.6～12.21）を開催いたしました。ご来館、ご見学いただいた皆様に感謝いたします。

展示会に連動した講演会活動として①友愛労働歴史館共催講演会（労使研と共催）を、5月24日（木）14：00～16：00に、友愛労働歴史館研修室で開催しました。テーマ：「片山哲・民主化のリーダー、現代に受け継ぐものは何か」、講師は梅澤昇平氏（尚美学園大学名誉教授）でした（写真参照）。また、友愛会創立記念労働講座（友愛会創立を記念する会と共催）を、2018年8月1日（水）10：30～11：45に、友愛労働歴史館・研修室で開催しました。テーマは「松岡駒吉と野田争議」、講師は郷土史研究者の石井一彦氏でした。

資料の収集・管理作業は年間を通して取り組み、元民社党関係者・元鉄労関係者・旧ゼンキン連合関係者・電力総連関係者よりそれぞれ資料の寄贈を受けました。

調査・研究活動では3月2日（金）に「第17回政治・社会運動史研究会」を開催しました。テーマは「民社党時代を語る（共通テーマ）」、講師は重盛親聖氏（元造船重機労連 IHI 労働組合、元呉地区同盟専従）。また、2018年7月19日（木）14：00～16：00に友愛労働歴史館研修室で、「第18回政治・社会運動史研究会」を開催。テーマは「祖父・三輪寿壯を語る」、講師は三輪建二氏（星槎大学大学院教授）でした。

2. 新しい企画展「民社党結党60年」がスタート、1月7日（月）！

友愛労働歴史館は1月7日（月）から新しい企画展「民社党結党60年—勤労国民政党的旗を掲げて—」（2018.1.7～06.28）を開催します。



民社党（民主社会党）は1960（昭和35）年1月24日、左傾化した日本社会党を離脱した旧社会民衆党系・旧日本労農党系（一部）グループにより創立されました。民主社会主義を掲げ、勤労者を基軸とする国民政党的としてスタートした民社党は、35年の活動を積み重ね、1994年に新党（新進党）移行のため解党しています。

2019年は結党から60年（数え年）、解党から25年を迎えます。友愛労働

歴史館はこれを記念し、民社協会の後援を受けつつ、企画展「民社党結党60年—勤労国民政
の旗を掲げて—」（2018.1.7～06.28）を開催します。同展では民社党の35年の歴史・活動を紹介する中、その前身である社会民衆党（1926年結党）や日本社会党（1945年結党）にも言及しつつ、同党が掲げた勤労国民政の意を浮き彫りにします。

同展の構成は第1部「民社党前史—社会民衆党から日本社会党までの35年—」、第2部「民社党の結党—その理念、組織、政策、活動—」、そして第3部「民社党の解散—新進党・民主党への合流、民社協会の結成—」です。

2019年7月5日からは企画展「協調会100年」（仮称）を開催いたします。2019年は協調会（1919.12.22～1946.6.26）結成から100年に当たり、これを記念しての企画展「協調会結成から100年—いまその意味を考える—」（仮称）開催です。なお、協調会関連の団体として産業能率研究所（日本産業能率研究所。現産業能率大学）と中央労働学園（1949年学制改革により中央労働学園大学。後に法政大学に移管され、法政大学社会学部の母体があります。協調会と同じ1919年に大原社会問題研究所が設立されており、後に二つの団体は法政大学に継承されます。

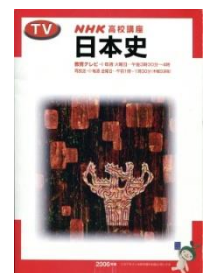
3. 教科書（NHK 高校講座「日本史」）の中の「友愛会」！

「友愛会」は日本労働運動の源流として、創業者・鈴木文治の名前とともに高校教科書「日本史」には必ず登場します。しかし、多くは大正デモクラシーとの関連の中で簡単に記述されています。ところがNHK 高校講座「日本史」（2006年）は、「37 大正期の社会」の「友愛会の結成」で、以下の文章を掲載して友愛会の「人格承認の要求」に言及しています。

NHK テキスト 2006年 高校講座「日本史」80頁「友愛会の結成」

「明治から大正に改元された直後の1912（大正元）年8月1日、キリスト教の伝道にあたりながら社会問題に関心を寄せていた鈴木文治は、のちに日本の労働組合運動の中核となる友愛会をわずか15人の参会者で立ち上げた。

当時、労働者が「一般社会」から「職工風情」と蔑まれ、「社会の最下等動物」のごとく見なされていたことに対し、労働を国家や文明を支える「神聖」なものとしたうえで、労働者自身の「相愛扶助」「識見の開発、徳性の涵養、技術の進歩」「地位の改善」によって差別と偏見を取り除いていこうとしたのである。それは、工場主や資本家に対して、同じ人間であることを認めてもらいたいという人格承認の願いでもあった。友愛会は結成から4年余で会員数が2万人に達し、人格承認の要求がいかに多くの働く人びとの心をとらえていたかがわかる。お互いに対等・平等な人間として認めあうことの大切さに、人びとは気づき始めていたのである。」



「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

唯一館から124年、友愛会から106年